

令和2年度前期 学群教育改善計画

学群(学部)名	看護学群
学群(学部)長名	高橋 和子

1ー(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。 ※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。		
①	課題	オンラインでの遠隔授業が主であったが、後から、内容が難しい、進め方が早くてついていけなかった、どこの説明をしているのか分からなかった等のコメントが寄せられていた。
	理由	教員側も、遠隔授業は、初めてである場合が多く、授業時に学生の表情・反応を把握することが難しい状況もあった。実施方法について工夫をしていたものの、教員が期待した成果に至っていない場合もあった。
②	課題	多くの科目で、自己学習課題やレポートが課されていたが、課題の多さに負担に感じていた学生と、学修の方法やポイントが分かり良かった等、捉え方が二分されていた。
	理由	単純には比較できないが、少なくとも昨年度後期より、週当たりの授業外の学習時間が総体的に長くなっている。大学側としては、授業以外の学修時間を長くすることが継続的な課題となっており、学生と教員側で、授業外に必要な学修時間の認識に差がある。
③	課題	遠隔システムを用いて、ディスカッション等のグループワークを行えた科目は、演習においても比較的満足できる学習の成果が挙げられていた。一方で、看護技術等の実技演習を行う科目では、対面での演習を実施することができず、大きな影響が生じた。
	理由	新型コロナウイルス感染症拡大を防止する対応として、対面授業が制限された。
1ー(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。		
①	・遠隔授業においても、レスポンスカードを活用して、講義毎に、前回の学生からの記載内容にフィードバックしている科目もあり、改善点等が早期にキャッチ・対応されていた。看護学群においては可能な限り、対面での授業を実施しており、学生の反応を確認しながら、授業展開が図られるよう、より意識する。	
	・分からないこと等がある場合は、学生から教員に伝えるということも授業の相互性を高めることにつながる。引き続き、学生に積極的な授業への参加を促す。	
②	・学生数や授業内容にあった講義室の使用を考慮するとともに、期待する学修効果が想定される学修システム等の導入を検討する。また、令和4年度から、保健師助産師看護師学校指定規則の変更により、新カリキュラムによる教育が開始される。そのため、不具合があったり、改善することにより学修効果の向上が期待できる学修環境を把握し、修繕を行うことで、学習環境を整備する。	
	・看護技術については、対面での授業が再開され、感染対策を行った上で実施方法の工夫を図り、演習を行っている。一部の演習は、遠隔でも実施可能であり、引き続き、感染対策に充分留意し、学習方法の組み合わせや新たな方法を試みるなどして、看護技術修得に関わる科目を展開する。	

2ー(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。	
・授業の展開方法の整理：事前・事後学修で自分で確認できる内容、対面で実施する必要がある内容、モデルやシミュレーターで習熟する必要がある内容等に整理し、学修のつながりを見えやすくする。	
・レスポンスカードの活用：毎回講義の前半20～30分を前回講義の質疑、補充、課題についての解説にあて、理解の補強を行った。	
2ー(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。	
・教員会議や学群内の会議等で紹介し、情報を共有する。	
・看護学群のFD等を通して、学修意欲の向上につながる、事前・事後学修の教材の作成、これまであまり用いられていなかった学修支援システム等の活用による新たな学修方法の展開、シミュレーション教育の強化による実践能力の向上を図る。	